

Teshio River Scenic Byway

天塩川 シーニック バイウェイ

—テッシ・オ・ペッ—

ルート運営活動計画書

天塩川シーニックバイウェイ ルート運営活動計画書

平成29年7月10日版

= 目次 =

1. ルートのエリア及び概要	・・・ p 2
(1) ルートの概要	・・・ p 2
(2) ルートの位置とエリア概要	・・・ p 3
2. ルートの名称とテーマ、ルートストーリー	・・・ p 7
3. ルートの資源と課題	・・・ p 2 5
(1) ルートの特性	・・・ p 2 5
(2) ルートの課題	・・・ p 2 9
4. ルートの活動体制及び方針・内容	・・・ p 3 1
(1) 活動体制	・・・ p 3 1
(2) 活動方針（目指す姿）と活動内容	・・・ p 3 2
5. ルートの活動団体	・・・ p 4 0
6. ルートの活動実績と今後の計画案	・・・ p 4 4
(1) 活動の現状～これまでの活動概要～	・・・ p 4 4
(2) 今後の活動計画（案）	・・・ p 6 3

<参考資料：別冊>

ルートの魅力パンフレット（H 2 9 年 3 月発行）



1. ルートのエリア及び概要

(1) ルートの概要

当ルートは、日本では希少な原始河川で、なおかつ北海道遺産にも指定された「天塩川」を有し、幹線道路である国道40号が天塩川とほぼ平行しながら南北に伸びている地域です。

当地域の特徴は、天塩川だけでなく、名寄川や雨竜川、剣淵川など、川が育んだ肥沃な大地を活かした全国有数の農業生産地であり、豊富な森林資源を持つ環境エリアです。しかし、観光に関しては長年「空白地域」と揶揄されてきました。このことで、結果として、手付かずの自然や景観が残り、今後の北海道全体の新たな観光資源として、大きな可能性を秘めています。

冬期には内陸性特有の厳しい寒さとなり、日本有数の厳寒地がもたらす自然現象や厳寒ゆえに可能な独自性のあるイベントも各地で実施されています。又、クロスカントリー、エアリアル、ジャンプスキーなどウィンタースポーツの先進地として大会も実施されるなど、北海道観光の課題とされている冬期間にもある程度の人の流れが形成されています。

当ルートの幹線である国道40号、国道239号、国道275号を通して宗谷やオホーツク、日本海方面へルートが整備されていることから、既存のシーニックバイウェイへのポータルエリアとして各地との一層の交流促進効果をもつことも期待できます。

当ルートの和寒町、剣淵町、士別市、幌加内町、名寄市、下川町、美深町、音威子府村、中川町の9市町村は、長年、「行政」「観光協会」「商工会議所・商工会」等が会員となり『道北観光連盟』を組織し、上川北部地域の観光振興を担っています。今後は、シーニックバイウェイの制度のもと、地域振興を担う「人」や「組織」の充実を図り、且つ、地域住民にとって最も身近な「道」と地域の宝である「川」の活用を通して、上川北部地域全体が連携と意識の共有が図れるよう、地域が一体となった、より一層活力と魅力あふれる地域づくりの実現を推進していきます。また、道内外の観光客はもとより、今後一層増えてくることが予想される外国人観光客をターゲットにした、広域的なエリアを観光周遊できるルート設定を模索するなど、隣接するシーニックバイウェイルートや地域団体等との連携を図りながら、魅力ある「きた北海道」エリアを目指します。



(2) ルートの位置とエリア概要

<ルートの位置>

■メインルート

国道40号、国道239号、国道275号

■メインリバー

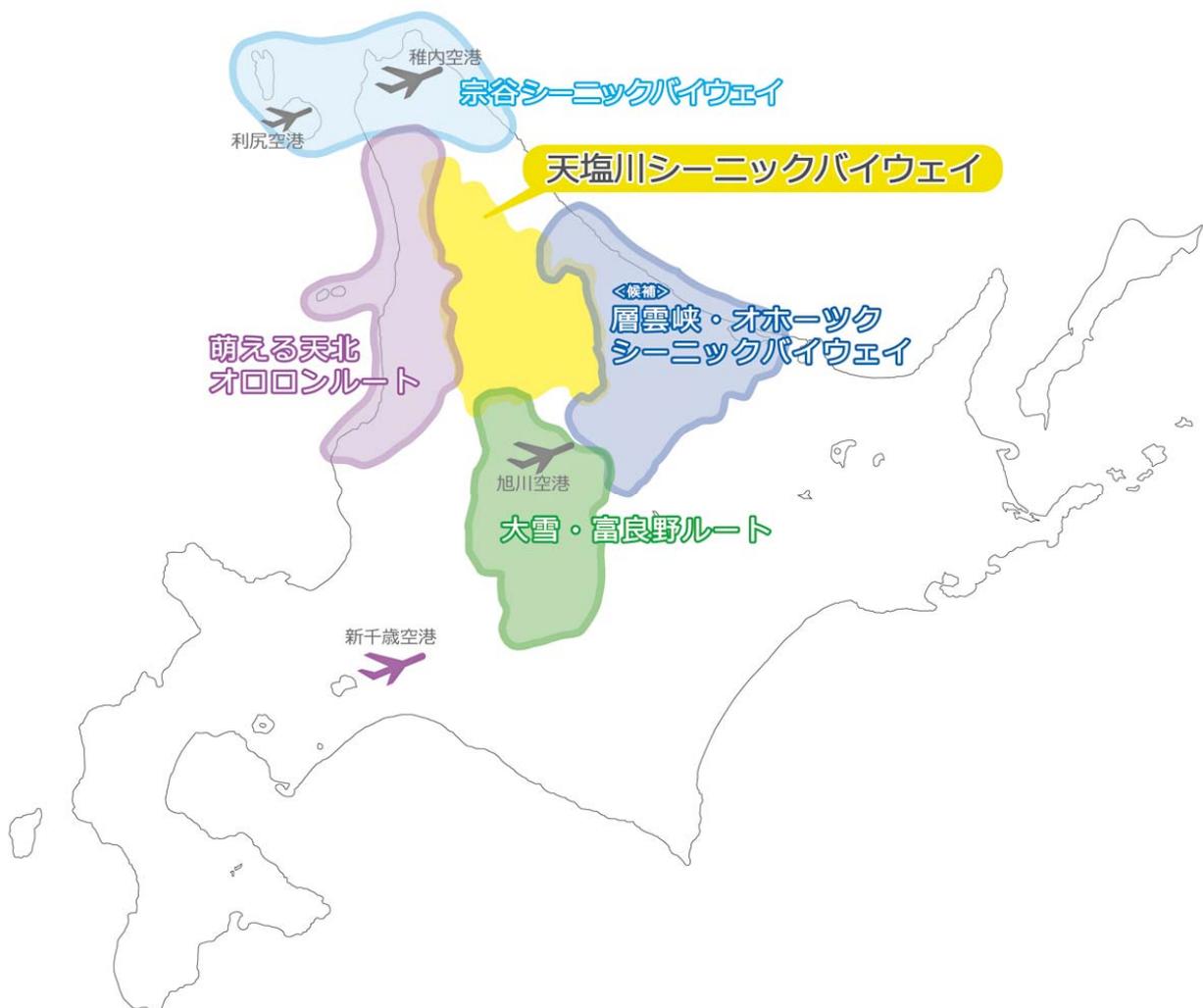
天塩川、名寄川、雨竜川、剣淵川

■市町村

和寒町、剣淵町、士別市、幌加内町、名寄市、下川町、美深町、音威子府村、中川町

□隣接するシーニックバイウエイルート

- ・宗谷シーニックバイウェイ
- ・萌える天北オロロンルート
- ・大雪・富良野ルート
- ・（候補）層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ



隣接するシーニックバイウエイルートとの関係位置図



ルート位置図

<エリア概要（エリア内の市町村概要・2市6町1村）>

<h2>和寒町 Wassamu town</h2>		<p>《概況》 名寄盆地の最南端。作付面積日本一を誇る「かぼちゃ」、「越冬キャベツ」の発祥地として有名。三浦綾子の小説「塩狩峠」の舞台であり、旧宅を復元した記念館には執筆されていた部屋がそのまま残っている。「全日本玉入れ選手権」や「極寒フェスティバル」などの地域の特徴を活かしたイベントが四季折々に開催されている。道央からのルートの入口。</p>
 <p>和寒町 Wassamu Town</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●人口：3,515人 ●面積：224.83km² ★ロード：R40 ★リバー：剣淵川 	<p>《地域資源／観光スポット》 塩狩峠一目千本桜、夫婦岩、塩狩峠記念館（三浦綾子旧宅）、長野政雄顕彰碑、南丘森林公園、三笠山自然公園こどもの国 他</p>

<p>《概況》 剣淵町は絵本の里として有名。絵本の館には、約4万冊の絵本があり、年間4万人もの人が全国各地から訪れる。映画「じんじん」の舞台となり、美しく綺麗な「パッチワークの丘」など、新たな観光名所となった。H28年度にはレンタル用の自転車を購入し、町民ライドを実施した。自転車などによる、ゆっくり地域を周遊、観光してもらえるよう、受入れ環境の整備等を進めているところ。</p> <p>《地域資源／観光スポット》 アルパカ牧場、レークサイド桜岡、絵本の館、パークゴルフ場、「じんじん」ロケ地 他</p>	<p>剣淵町 Kenbuchi town</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人口：3,233人 ●面積：130.99 km² ★ロード：R40 ★リバー：剣淵川 ▲道の駅絵本の里けんぶち 
--	---

<p>士別市 Shibetsu city</p>  <ul style="list-style-type: none"> ●人口：19,540人 ●面積：1,119km² ★ロード：R40、R239 ★リバー：天塩川 	<p>《概況》 羊のまちとして有名で、「羊と雲の丘」では羊の放牧やエサやり体験、士別サフォークラム料理、羊毛工芸体験などが楽しめる。天塩岳の登山、岩尾内湖での釣り、市内5か所に設置しているフットパスコースなど、アウトドア体験を手軽に楽しめることも魅力である。「国際雪ハネ選手権」は冬の名物イベントとなっており、各地から多くの参加者を募り、毎年盛り上がりを見せている。また、スノーモビルの発祥の地としても有名である。</p> <p>《地域資源／観光スポット》 サフォーク、羊と雲の丘、天塩岳、岩尾内湖、満天の星の丘、つくも水郷公園、他</p>
---	--

<p>《概況》 そば畑の作付面積・収穫量はダントツの日本一、日本最大の人造湖「朱鞠内湖」、日本最寒の記録(マイナス41.2度)の3つの日本一を持つ幌加内町。南北に大きく広がり、11市町村に隣接する。地域住民等が集まる「景観プロジェクト」では、そばの花の景観からの観光振興を目指し、沿道の景観整備・看板設置などを実施している。深名線跡の「旧沼牛駅」を復活させ、地域で守る動きがある。朱鞠内湖でのフライフィッシング、冬のワカサギ釣りなどが有名である。</p> <p>《地域資源／観光スポット》 幌加内そば、朱鞠内湖、母子里クリスタルパーク、ポンコタン鉄橋、そばの花ビューポイント 他</p>	<p>幌加内町 Horokanai town</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人口：1,537人 ●面積：767.04 km² ★ロード：R239、R275 ★リバー：雨竜川 ▲道の駅森と湖の里ほろかない 
---	---

<p>名寄市 Nayoro city</p>  <ul style="list-style-type: none"> ●人口：28,071人 ●面積：535.20km² ★ロード：R40、R239 ★リバー：天塩川、名寄川 ▲道の駅もち米の里なよろ 	<p>《概況》 旭川以北の道北エリアの中心市として、病院や商業施設、文化施設などの機能が備わっている。「ひまわり」の景観が有名で、映画「星守る犬」の舞台ともなった。道立サンピラーパークでは、毎年訪れる人を楽しませている。なよろ市立天文台の「ピリカ望遠鏡」は道内一の大きさで、暗い天体まで観測できる。冬のイベント「雪質日本一フェスティバル」と一緒に開催される「国際雪像彫刻大会」は、海外からのアーティストが集り、作品のクオリティの高さは圧巻。雪質がよくサンピラー現象も見られる。もち米の生産は日本一を誇る。</p> <p>《地域資源／観光スポット》 サンピラーパーク、智恵文沼、ピヤシリスキー場、天文台、滝(ナイオロップ、比翼など)、カーリングホール、もち米(ソフト大福) 他</p>
--	---

<p>《概況》 アイスキャンドル発祥の地である下川町では、毎年イベント(アイスキャンドルミュージアム)が行われ、幻想的な空間を作り出している。また、15年かけて15万個以上の石を積み上げて参加型でつくられた「万里の長城」も有名。森林浴を楽しむアウトドア体験やイベント、はし作り体験や樹脂から作るアロマオイルなど、森林資源を利用した取り組みも充実している。2011年「環境未来都市」として選定。</p>	<h2 style="margin: 0;">下川町 Shimokawa town</h2>
<p>《地域資源／観光スポット》 万里長城、体験の森、気動車(期間限定宿泊可)、五味温泉、アイスキャンドル、手延べ饅頭 他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●人口: 3,383人 ●面積: 644.2km² ★ロード: R239 ★リバー: 名寄川 <div style="text-align: center;">  <p style="margin: 0;">下川町 Shimokawa Town</p> </div>

<h2 style="margin: 0;">美深町 Bifuka town</h2>	<p>《概況》 天塩川が南北に貫流し、夏場はカヌーやラフティング体験だけでなく、フィッシングを楽しむ姿もみられる。湿原トレッキングやトロッコでの森林浴など、全体として、ゆっくりじっくり自然を満喫できる地域であり、まさにここにしかない体験ができる。天塩川を中心とした地域在住のカヌーガイドもいる。白樺樹液100%の自然飲料「森の雫」は日本では初めて大地から吸収した水々しい樹液として有名。美深産小麦・ハルユタカにこだわった商品を多く開発。</p>
<div style="text-align: center;">  <p style="margin: 0;">美深町 Bifuka Town</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ●人口: 4,529人 ●面積: 672.09km² ★ロード: R40、R275 ★リバー: 天塩川 ▲道の駅びふか 	<p>《地域資源／観光スポット》 天塩川、函岳、松山湿原、トロッコ王国、ニウプの冷水・十六滝、チョウザメ館、びふか温泉 他</p>

<p>《概況》 全国各地から生徒が集る美術工芸高校や、北海道の木の彫刻家砂澤ビッキ氏の作品が並ぶ「おさしまエコミュージアム」、北海道命名の地など、北海道一小さな村でありつつも、魅力は限りなくある。黒くて太い音威子府蕎麦を食べに、JR音威子府駅の立ち食い蕎麦へ訪れる客もあとを絶たない。北大演習林の四季折々の森の変化も美しく、天塩川と国道40号、JR宗谷本線が並行に走り、みる景色も各々に魅力がある。</p>	<h2 style="margin: 0;">音威子府村 Otoineppu village</h2>
<p>《地域資源／観光スポット》 天塩川、おさしまエコミュージアム、天塩川温泉、おといねっふ美術工芸高等学校、北海道命名の地、JR音威子府駅、交通資料館、クロスカントリー 他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●人口: 789人 ●面積: 275.63km² ★ロード: R40、R275 ★リバー: 天塩川 ▲道の駅おといねっふ <div style="text-align: center;">  <p style="margin: 0;">音威子府村 Otoineppu Village</p> </div>

<h2 style="margin: 0;">中川町 Nakagawa town</h2>	<p>《概況》 四季折々に楽しめ、且つ、自然をそのまま活用した一風変わった工夫あるイベントが多く、夏は「水切り大会」、秋には「秋味まつり／丸太押し相撲大会」、冬には「きこり祭り」や「解氷クイズ」など、町内外の人が多く参加でき楽しめる。森林資源が豊かな環境を活かしたアウトドア体験に力を入れ、ロードバイクやマウンテンバイクのレンタサイクル、カヌーのレンタル、トレッキングコースなどもある。</p>
<div style="text-align: center;">  <p style="margin: 0;">中川町 Nakagawa Town</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ●人口: 1,601人 ●面積: 594.74km² ★ロード: R40 ★リバー: 天塩川 ▲道の駅なかがわ 	<p>《地域資源／観光スポット》 天塩川、ポンピラ・アクア・リズイング、なかがわエコミュージアム、交流プラザ(JR天塩中川駅)、パンケ山・ペンケ山、釣り・カヌー、化石、丸太押し相撲 他</p>



2. ルートの名称とテーマ、ルートストーリー

<ルート名称>

天塩川シーニックバイウェイ - テッシ・オ・ペツ -

私達のエリアを代表する大きな自然「天塩川」を名称に入れることで、このルートの取り組み自体が地域住民へよりいっそう広がることを期待し、また、住民に親しみ・愛着を持ってもらうこと、地域外の方々へは天塩川を通じて、地域の様々なものに触れ・知ってもらうことに繋がる期待をこめ、「天塩川」からわき道・寄り道を楽しんでもらえるよう「天塩川シーニックバイウェイ」としました。「テッシ・オ・ペツ」はアイヌ語からきており、「テッシ」は「梁（魚を捕獲する仕掛け）」、「オ」は「多い」、「ペツ」は「川」を意味します。ルート名とあわせて使うことで、北海道らしいルートであることをより強調できるよう、ニックネームとして使用します。



四季折々の表情を魅せる天塩川

北の大河に人と自然の調和が織りなす道

北に向かって流れる日本最北の大河「天塩川」。
川を包むように、まちがあり、人が住む。
風が運ぶ森の匂いを感じ、ゆっくりと時が流れ、
静かで、美しい手つかずの自然と最北の花畑や野菜たちの四季折々の色。
そこに、人の手で作り上げたモノ（資源）が点在する。
毎日、目に映るものは、四季折々に変化する風景と大きな空。
毎日、耳に残るものは、木々が揺れ重なる森の音と動物の足音、そして、人の声。
どこの町にいても、どこを歩いているとも、
歩いているおじいちゃんも、自転車のおかあさんも、友達と下校途中の子供達も、
知らない私に「おはよう」をくれる。
車を降りて歩きたいと思う道がここにある。

土の味を知り、森に触れ、水を感じ、空を楽しむ。
海をもたず、空の乗り物をもたず、電波がないエリアを持つ。

でも、ここにしかない特別な時間、
何もない良さを「魅力」として感じられる空間がここにある。

私達の自慢、きっと次はあなたの自慢の、天塩川シーニックバイウェイ。

～「北の大河に人と自然の調和が織りなす道」をテーマに～

天塩川シーニックバイウェイは、日本最北の大河「天塩川」と国道40号がほぼ平行し、また、国道275号、国道239号を通して道央圏、オホーツク圏へのポータルとなるルートです【みち】。

和寒町、剣淵町、士別市、幌加内町、名寄市、下川町、美深町、音威子府村、中川町の各地域が持つ地域資源と天塩川を取り巻く恵まれた自然環境【自然】、北海道遺産に指定されている「天塩川」とその他の川や湖【川】、手つかずの自然を守り続けた先人達【ひと】との関わりを大切に、「みち」と「川」と「自然」と「ひと」の共存共栄を目指して、これまでの活動のさらなる発展を目指し、道（みち）をきっかけとした地域づくり、町づくりを進めていきたいと考えます。

また、広域観光周遊ルート「日本のでっぺん。きた北海道ルート。」にも認定され、近隣市町村および隣接するシーニックバイウェイルートと連携した、より広域的なエリアでの展開を見据えながら、更なる活動の充実を図っていきたいと考え、「北の大河に人と自然の調和が織りなす道」をテーマとしました。

<ルートストーリー>

当ルートが考える“ルートストーリー”は、「遊べる大河」・「手軽な本格」・「どこにでもある風景」を繋げる・「魅力的な不便」・「寒さは魅力」の5つです。これらのストーリーがそれぞれに関わりながら、活動の充実を図ります。

また、どのストーリーも組み合わせることでさらにルートの魅力が増し、楽しさも倍増します。

Story 1 「遊べる大河」 ~“水×遊び”は無限。

<遊ぶ×感じる> 日本で4番目に長い「天塩川」の他、雨竜川、名寄川、剣淵川を有し、朱鞠内湖、岩尾内湖などの湖も点在。この「水」との触れ合いを逃すのはもったいない。遊ばずにはられない。遊んでもらいたい。

Story 2 「手軽な本格」 ~身近なところから本物を知る。

<知る×感じる> ルートの中心に位置する名寄市から、最大でも車で2時間の距離でカヌーも釣りもキャンプもでき、日本一の雪質を感じながらスキー、スノーボードを体験、サンピラー現象やダイヤモンドも見ることができる。また、ここは「北海道」を命名した松浦武四郎ゆかりのエリアでもあり、武四郎が歩いた道を辿っていくこともできる。どれもが「本格」であり、「手軽」に体験できる。

Story 3 「どこにでもある風景」を繋げる。

<作る×感じる> 道や川だけでなく、その周辺全体の空間を意識して、どこにでもある風景かもしれないけれど、「美しい」と思われる空間をつくり続け、風景を繋ぎ、次の世代へ繋いでいく。

Story 4 「魅力的な不便」 ~不便が好きになる。

<楽しむ×感じる> 手つかずの自然が多く残る当エリアにおいて、「不便」と感じる事は少なくないが、それは視点を変えれば「魅力的」であり、強みである。膨大な情報社会から離れ、自分本位な時間を楽しめる事が、他にはない魅力である。

Story 5 「寒さは魅力」 ~寒い・冷たいが味方になる。

<見る×感じる> 寒くて冷たい、冬にしか見られない現象（サンピラーやダイヤモンドダスト）、雪の良さを活かした形（アイス・スノーキャンドル、雪像）、雪があるから遊べるもの（スキー、スノーボード、スノーシュー）などと、独自性のある個性豊かな冬のイベントが盛りだくさんの地域。今は「点」での取り組みを今後は「面」に。

Story 1 「遊べる大河」 ～“水×遊び”は無限。

北海道遺産であり、日本で4番目の長さを誇る大河“天塩川”は、カヌーや釣り人達に人気の川です。天塩川を包む手つかずの自然景観の魅力とあわせ、幻の魚イトウが釣れるなど、道外からも注目されています。また、カヌーをするには比較的川の流れも穏やかなため、初心者でも参加しやすいなどの特徴もあります。長年続いている天塩川のカヌーツーリング大会「ダウン・ザ・テッシ-オ-ペツ」の開催時には、一度に100艇以上ものカヌーが集り、川を賑わせる風景も圧巻です。

天塩川は全長256km、流域の約7割を山林が占め、周辺では北海道を代表するエゾシカやキタキツネ、エゾシマリス、オジロワシ、アオサギ、天然記念物のクマゲラなど、多種多様な生き物に出会えます。

“遊べる大河＝天塩川”を中心に、当エリアには、朱鞠内湖や岩尾内湖、雨竜川や名寄川、剣淵川など、どこにいても“水を感じ”つつ“遊べる”ことができる魅力的な資源があります。どこか海外の風景を思わせるような、幻想的で壮大な自然風景の中でフライフィッシングを楽しむ人、真っ白な雪景色の中に色とりどりのテントが映える冬の朱鞠内湖でのワカサギ釣りを楽しむ家族、天塩川よりも川の流れも速くカヌー上級者の隠れた人気スポット雨竜川なども、この地域の魅力となっています。

現在ある資源（素材）を上手く活用した体験メニューの充実、PRとともに、今後より一層増えることが想定される外国人観光客を念頭におきつつ、エリア全体を「遊べる空間」として、川・湖などとあわせた「水を感じる旅」を提供していきます。



地元でレンタルのカヌーを借りて川を下る体験（中川町佐久）

水×遊び (play) のススメ

訪れる人たちへ、地元が“水”の楽しみ方を案内する。
水と自然と生き物から、自分なりの遊びを見つける。

水の上を進む●カヌー、ラフティング

川が人で埋まる夏の一大イベント・カヌー大会 『ダウン・ザ・テッシ-オ-ペツ』



毎年1泊2日のコース設定で、起終点（発着地域）が変わり、同じコース設定ではない新鮮さや楽しみがあり、リピーターとなる参加者も多いイベント。ダウン・ザ・テッシ-オ-ペツ実行委員会が主催し、沿線の地域団体・自治体、観光協会、北海道大学等が協力しながら実施している。

（対象：天塩川／全地域～天塩町まで）

地元ガイドによるカヌー、ラフティング体験



事前にスケジュールや人数などを地元ガイドへ相談すると、参加者の経験などを考慮し、漕ぎ方やコース案内、体験中は地域の自然や景観、川の中の生き物などの説明をしてくれる。中川町ではカヌーの貸し出し、美深町ではカヌーガイドが2社あり、初心者でも安心して体験ができる。各観光協会を通じて、シーズニックのツアー等に協力いただいている。

（対象：天塩川、雨竜川他／ガイド在：美深町）

生き物を知る●フィッシング、ワカサギ釣り

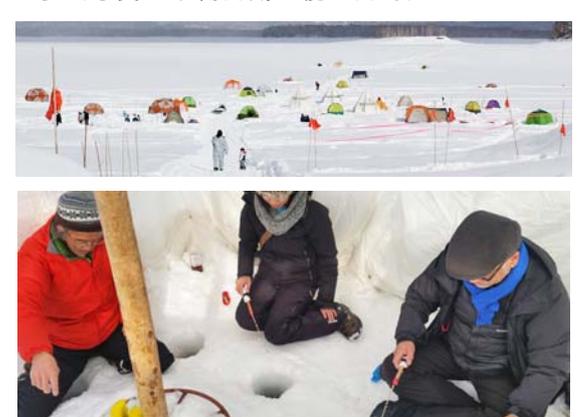
幻想的な風景の中で美しい弧を描くフライ フィッシング（写真：岩尾内湖／士別市）



静かな湖に体を浸し、生き物と呼吸をあわせる瞬間。天塩川や朱鞠内湖では、幻の魚「イトウ」が釣れることもある。ターゲットを絞ったフライフィッシングのガイドツアーや、各観光協会が窓口となって釣り場等も紹介している。

（対象：天塩川、雨竜川、朱鞠内湖、岩尾内湖）

寒い冬こそ賑わう、手ぶらで遊べるワカサギ 釣り（写真：朱鞠内湖／幌加内町）



釣り道具や餌、テントのレンタルの他、その場で天ぷらにできるセットも有り、釣り方も丁寧にレクチャーしてくれる。観光協会による「冬のスタンプラリー」のメインスポット。

（対象：朱鞠内湖）

水の音を聴きながら星の下で眠る ● キャンプ

カヌーイストに優しいキャンプサイトと温泉

(写真：ナポートパーク(ポート/貸出)×キャンプ場×ポンピラアクアリズイング(温泉)/中川町)



カヌーポートとほぼ隣接しているキャンプ場と温泉施設が多く、屋外での遊びの後にはありがたい条件が揃っている。各温泉施設でも自転車の持ち込み等の対応も徐々に進めている。

(対象：天塩川/ポート×キャンプ場×温泉)

天塩川のカヌーポート“川の駅” (写真：天塩川温泉/音威子府村)



天塩川に面したカヌーポートは全9箇所あり、それぞれの地域毎に味のある看板が設置されている。自然景観にもなじみ、ポートであることがわかり易くてよい。

(対象：天塩川)

水に関する ● 遊びの種

風景を楽しむ観光遊覧船、貸しポート (写真：朱鞠内湖/幌加内町)



湖の美しい景観を楽しめる観光遊覧船で、自然風景を堪能。手漕ぎボートを借りて、人の居ない奥地で釣りをするなど、ガイドなし・予約無しでも体験できるメニューがルート内に点在する。自分の予定にあわせて、アクティビティと資源巡りなどを自由に組み合わせ、楽しみながら地域を巡る「エコ・モビリティ」の旅のコンテンツの一つとしてもお勧め。

(対象：南丘森林公園(和寒)、レイクサイド桜岡(剣淵)、つくも水郷公園(土別)、朱鞠内湖(幌加内))

- 見る/ナイオロップの滝・比翼の滝・晨光の滝(名寄市)、十六滝(美深町)
- 味わう/冷水(美深町仁宇布)



眺めるだけでも十分に楽しめるのが「滝」。熊の出没に気をつけつつ、少し森に足を踏み入れればマイナスイオンで癒される空間が待っている。各観光協会に相談すれば、地域によっては地元ガイドが案内をしてくれる。

(対象：名寄市、美深町)

Story 2 「手軽な本格」 ～身近なところから本物を知る。

「本格」とは何か。

当ルートには**沢山の一番**があり、**珍しく、最たるもの**が多く点在しています。美しい手つかずの自然に守られ、懐かしくも親しみやすくも感じられるほど、決して裏切らない“本物”、且つ、特別な“時・モノ・感覚”があります。この地域ならではの本格的な「アクティビティ」、日本一を誇る「食（材）」「歴史・文化」「芸術」など、様々な“本物”に触れることができる時間が身近にあります。

旭川や稚内、名寄など主要観光都市からもわずか2時間以内の距離で“**本格**”を“**手軽に**”体験できます。

「体験」と「生活圏」が密接し、どれもが本格であることが魅力です。

ここにしかなく、ここでしか味わえないものばかりで、人の手がかかって新たな魅力となるもの。これらを自ら工夫して、組み合わせて楽しめる旅を提供していきます。

まずは、本物を身近に感じてもらうところから。



どこまでも続くそば畑
(幌加内町)

A・「一番」と「最も」と「お初（発）」と「珍」。

- 和寒町 かぼちの生産・作付面積**日本一**！
- 幌加内町 そばの生産・作付面積**日本一**！
- 幌加内町 寒さ記録（マイナス41度）**日本一**！
- 名寄市 もち米の作付面積**日本一**！
- 名寄市 雪質**日本一**！ だから街中でもサンピラー&ダイヤモンドダスト現象！
- 広 域 天塩川は堰堤等の人工物に遮られない区間が156km続く川として**日本一**！
- 音威子府村 **北海道一**！ 小さな村。
- 士別市 めん羊頭数**北海道一**！
- 士別市 日本**最北**！ の屯田兵！
- 士別市 日本**最北**！ の料金所「士別剣淵IC」
- 名寄市 日本**最北**！ のぶどう畑登場！！
- 美深町 日本**最北**！ の高層湿原。
- 中川町 日本**最北**！ の野菜たちが大活躍！！
- 幌加内町 朱鞠内湖は**日本最大級**！ の人造湖。
- 広 域 天塩川は、北に向かう**日本最北の大河**。
- 下川町 今や冬にどこでも観られるアイスキャンドルの**発祥**！ の地
- 美深町 頂上まで車でいける**珍しい**山「函岳」。

B・文化・歴史、芸術に触れる（touch）

人の手によって生まれた芸術。人の手によって受け継がれてきた文化・歴史。

文化・歴史

●北海道命名の地と松浦武四郎



松浦武四郎の『天塩日誌』に残された記録等から、箴島地区（天塩川）に『北海道命名の地』碑を建立。（音威子府村）

★平成30年に、「北海道」と命名されてから150年、名付け親とされる探検家・松浦武四郎が生誕200年となる。

●塩狩峠記念館（三浦綾子旧宅）



小説「氷点」執筆の部屋や小説・映画「塩狩峠」に関する資料等を展示。JR塩狩駅の目の前に位置。（和寒町）

●名寄市北国博物館



アイヌ文化の歴史や郷土の歴史資料の展示、自然や文化に親しむ体験等も有る。（名寄市）

●中川町エコミュージアムセンター エコールなかがわ



白亜紀の地層から産出する化石、アンモナイト等が展示。宿泊研修施設も完備。（中川町）

●エコミュージアムおさしまセンター BIKKYアトリエ3モア



木の彫刻家、故・砂澤ビッキ氏のアトリエをそのまま保存し、ビッキ氏の作品が展示されている。（音威子府村）

●万里長城



15年かけて作られた市民が集う公園は、全長2kmもの距離に、人の手で積み上げられた石の数が15万個にもなる。（下川町）

芸術

*エコミュージアム・・・エコロジー（生態学）とミュージアム（博物館）とを合わせた造語

A×Bの本物を組み合わせた「手軽な本格」メニュー例

ひと言に「道北」といっても、その中でも様々である。

隣接するエリアの地域特性・拘りある人達の個性を活かした企画を創り出すことが「本物」をより活かす。

●“道北クラフト&プレイ”ブランド化推進事業【北部エリア】

冬期間の集客強化、滞在時間の延長、新しいツアーの開発などを目的に、「アウトドア体験」×「地域素材を活用したクラフト体験」＋「食」を組み合わせ、季節に応じて体験メニューもかえながら、かっこよく、楽しさを共有できるゆっくりとした時間を過ごすことのできる商品づくり事業。手軽に楽しめるけれど、本物の良さを知り、不便な環境にいつも優雅さを感じられるイベント企画、魅せるPR動画の作成など、こだわりある内容で注目を集めている。

<商品づくりの例>

- 夏：天塩川カヌー＋ククサ作り体験＋キャンプ
- 冬：雪板づくり体験＋スノーシュー＋キャンプ
&地元食材を使った料理（ダッチオーブンなど）＋焚き火 など
- 対象：いずれもアウトドア上級者向け
(エリア：名寄市、美深町、音威子府村、中川町)



秋の終わりに実施した「終り火」

●食と観光をテーマとした着地型観光推進事業【南部エリア】

平成28年度に行政と観光協会を中心に協議会を設立。「食と観光」をテーマに広域で連携し、当地域の特色ある観光資源を生かした魅力ある商品を作り、道内外から多くの観光客誘致を目指している。昨年度は、招聘事業やモニターツアー、1市3町の広域観光パンフレットの作成、道内外物産展での地域PR等、様々な事業を実施。今後は食を通しての更なる地域PR、各事業を実施し、サイクリング事業やインバウンド対応など新たな取組みも進め、地域への誘客促進を図る。

(エリア：和寒町、剣淵町、士別市、幌加内町)



食と観光、体験をテーマにした4市町で連携したパンフレット

Story 3 「どこにでもある風景」を繋げる。

人が手を加えるからこそ、より魅力的となる「道」。通るからこそ意味を持つ「道」。“どこかで見たことある**美しい風景**”を作っているのは、地域に住んでいる人達。どこでもやっているおもてなしの道づくり。私達のルートのものである「天塩川」やその周辺を、綺麗に守っていくことが、自分達の役目。

人との会話が弾む空間づくり、走ってみたいと思える道づくり、また来たいと思えるまちづくり、を目指します。

国道275号の花植え（幌加内町）



自然環境を活かした美しい景観づくり

▲ロード▲沿道の除草作業～町全体の風景を考慮した美しい景観づくり

幌加内町では、そば畑の景観を観光振興へ繋げるため、町内で実施される一斉除草の時期と、道路管理者で行う国道の草刈車調達時期をあわせて同日に作業し、町全体が統一した美しい景観が形成されるような取り組みを行っている。地元のそば生産者や農家、地域団体、観光協会、自治体、行政等での協働により、平成27年7月から開始し、町内から40名以上が参加する。また、町内で設定された「そばの花ビューポイント」に、自分達で看板を作成・設置し、食べるだけではない「そば」の楽しみ方を、パンフレット等を通じて情報発信・PRしている。

(幌加内町：国道275号)



(幌加内町：そばの花VP「純白の丘」)



(幌加内町：そばの花VP「白絨毯の丘」)

▲ロード▲沿道の花植え～おもてなしの心から始まる心地よい道づくり



(剣淵町市街)



(名寄市市街：国道40号に向かう道道)

▲ロード▲雪灯りの道～冬の夜も安心して歩ける明るい道づくり



(剣淵市街：「キャンドルウォーク」)



(美深町市街・国道40号：「雪燈籠」)

▲リバー▲川周辺の清掃～天塩川クリーンアップ大作戦



(士別市)



(美深町)

Story 4 「魅力的な不便」 ～不便が好きになる。

例えば「不便」ってなんでしょう。・・・移動手段がない。JRも通っていない。電波がとどかない。カフェがない。コンビニがない。トイレがない。・・・（人それぞれに無限に続きます）。

便利な世の中になればなるほど、デジタル化されているものに慣れ、即席で作られたもので満足し、時間がかかることを避けるようになっていたり、モノがあって当たり前を感じてきます。

当たり前のものが消えたとき、人は困ります。困っても生きていかなければいけません。しかも、楽しく、面白く生きたい。であれば、人は工夫します。

当ルートでは、JRが通らないエリアや路線バスのないエリアもあり、レンタカーを取り扱う店舗も少なく、2次交通の脆弱さは否めません。さらに携帯の電波が繋がらないエリアもあります。でも行ってはいけないところではありません。ちゃんと人も住んでいます。

当たり前にあったものが無くなった時、考える力が育ちます。工夫しようと努力します。都会では気がつけない「ない」ことの良さを、上手く自分なりに工夫して、新しい旅のカタチを作る楽しみがここにあります。

不便だから自分の力で移動する。自転車やカヌーを使って移動することで、ここでしか味わえない「魅力的な移動＝冒険」となること、膨大な情報社会からはなれ、自分勝手きままな自由な時間を楽しめることが魅力となります。

当ルートの魅力的な自然環境・資源を活かし、さらにカヌーや自転車、フットパスなどの人力で移動できるアクティビティと交通機関などの移動手段を組み合わせた新しい旅のスタイル「きた北海道エコ・モビリティ」を推奨し、広域的に楽しみながら周遊できるコース設定や環境整備、受け入れ態勢を整えていきます。



休憩施設に簡易自転車ラックを設置



コース案内を地域住民がガイドする

「遊べる大河」「手軽な本格」「どこにでもある風景」「魅力的な不便」
を組み合わせた私達お墨付きのお勧め周遊「エコ・モビリティ」の旅

< 2泊3日 >

例えばこんな方の場合
自然の中にいるのが大好き！
いろいろしてみたいけれど
ひとりではちょっと不安。

お友達と一緒に
レンタル自転車 &
ガイド付カヌー体験！

天塩川を知り尽くしたカヌーガイドさんにお願いすれば、初めてのカヌーだって怖いものなし！親切・丁寧に教えてくれます。なかなかレンタルしていることも少ないロードバイクやマウンテンバイクの貸し出しもあるので、走りたいコースにあわせて選ぶこともオススメです。お友達と一緒に話ししながら、手つかずの美しい自然風景や歴史文化に触れ、御当地の食を味わい、本格アクティビティで遊ぶ旅を。

～スロウモビリティの旅の例～

■エリア／天塩川流域ミュージアムパークウェイ

■コース／<自転車走行総距離：約130km>

1日目：JR剣淵駅集合（各自）～名寄温泉までロードバイク（途中で食事と地域資源の見学）
【名寄市泊／なよろ温泉サンピラー】

2日目：名寄市～道の駅びふかまでロードバイク～天塩川温泉までカヌー体験
【音威子府村泊／天塩川温泉】

3日目：音威子府村～中川町までJR移動～エコミュージアムなどを見学～森の中をマウンテンバイク＋トレッキング～JR天塩中川駅解散（各自）



▲コース内にあるお勧めスポット／

サフォーク料理（土別）、ソフト大福（名寄）、音威子府蕎麦（音威子府）、武四郎弁当（美深）、プラネタリウム（名寄）、ピヤシリスキー場ジャンプ台（名寄）、智恵文沼（名寄）、チョウザメ館（美深）、トロッコ王国（美深）、松山湿原（美深）、北海道命の地（音威子府）、エコミュージアム（音威子府、中川）、天塩弥生駅（名寄） など。



Story 5 「寒さは魅力」～寒い・冷たいが味方になる。

日本一の“寒さ”の記録を持つ幌加内町（*）、“雪質日本一を”誇る名寄市、北海道の冬の名物ともいえるアイスクャンドルの発祥地・下川町など、寒い冬こそ魅力とした面白いイベントが当ルートには溢れています。

現在は、各地域でそれぞれに冬のイベントを実施し、広報（情報発信）がされている「点」での取り組みであるが、いずれも各地域の活動団体メンバーが実行委員会等の中に入っているため、今後はルート全体を「面」として繋ぎ、冬でも周遊したくなるような情報発信の充実と、体制・仕組みづくりを行っていきます。

寒さゆえの面白い&楽しい冬のイベント

しもかわアイスクャンドルミュージアム



毎年、広大な面積を使って行われるアイスクャンドルイベント。年によってイベントの内容もかわり、魅せる・味わう・体験するの様々な角度で楽しませてくれる。（下川町）

なよろ雪質日本一フェスティバル・ なよろ国際雪像彫刻大会ジャパンカップ



国内だけでなく、毎年海外のアーティストからも応募があり、全12チームが雪の彫刻美を競うイベント。雪で造ったとは思えない作品のレベルの高さに圧巻。（名寄市）

しべつ雪まつり・国際雪ハネ選手権



冬になると苦になる「雪ハネ」を逆転の発想で楽しもうということで企画され、毎年多くのチームが熱い闘いを繰り広げている。（士別市）

わっさむ極寒フェスティバル



カーリングとボーリングの要素を混ぜた「アイスコーリング」など、面白い独創的な遊びが沢山ある珍しいイベント。地域の特産品「越冬キャベツ」なども販売。（和寒町）

* 昭和53年2月17日幌加内町母子里地区でマイナス41.2度を記録。記録日となった2月17日は、日本記念日協会から正式に認定されている。

▲冬のイベントと温泉、アクティビティができるところ（★）



市町村	冬のイベント	温泉	冬のアクティビティができるところ
和寒町	わっさむ極寒フェスティバル	－	東山スキー場
剣淵町	絵本の里けんぶちスノーフェスタ	レークサイド桜岡	アルパカ牧場（エアボード）、桜岡湖（ワカサギ釣り）
士別市	しべつ雪まつり・国際雪ハネ選手権 ／スノーモビルランドイン士別／M FJ公認全日本スノーモビル選手権	美し乃湯温泉、日向 温泉	日向スキー場、羊と雲の丘・士別 同友会カントリークラブ（スノー モビル）／あさひスキー場
幌加内町	天使のささやき記念日（ダイヤモンド ダストの体験他）	せいわ温泉ルオント	ほろたちスキー場、朱鞠内湖（ワ カサギ釣り）
名寄市	なよろ雪質日本一フェスティバル・ なよろ国際雪像彫刻大会ジャパンカ ップ／ふうれん冬まつり	なよろ温泉サンピラ ー	ピヤシリスキー場、サンピラーパ ーク（カーリング）
下川町	しもかわアイスキャンドルミュージ アム	五味温泉	下川町スキー場
美深町	びふかウィンターフェスタ	びふか温泉	美深スキー場
音威子府村	全日本雪上サッカー音威子府大会	天塩川温泉	音威富士スキー場
中川町	きこり祭、天塩川・春・発信～解氷 クイズ	ポンピラ・アクア・ リズムング	中川町民スキー場、ナポート・パー ク（冬のマウンテンバイク）

広域的なエリアの新たな旅のカタチ **きた北海道エコ・モビリティ**

宗谷シーニックバイウェイと連携した取り組み

手つかずの美しい自然風景が残る日本最北端エリア「きた北海道」。

和寒町から名寄市、中川町まで2市6町1村が繋がる「天塩川シーニックバイウェイ」には、信号もなく、どこまでも真っすぐに続く美しく快適な「道」、北へ向かって流れる北海道遺産の大河「天塩川」があります。自然を肌で感じ、体験し、御当地の食や温泉、美しい景観を楽しみながらゆっくり（スロウ）に移動する「エコ・モビリティ」型の旅には、このエリアは非常にマッチしたフィールドといえます。

また、このエリアの地域特性を十分に活用しながら、エリア内の資源を繋げ、道内外及び海外からのお客様を意識した広域的な周遊観光ルートの商品づくりを目指し、現在、**宗谷シーニックバイウェイと連携した「きた北海道エコ・モビリティ」**事業を進めています。

地域在住のガイドが案内をし、地域が誇る魅力的な資源に触れながら、自転車やカヌー、トレッキングなどの自分の力で進むアクティビティと公共交通などを上手に組み合わせた、移動そのものが観光となる新しい旅のスタイル「きた北海道エコ・モビリティ」のツアーの実施、案内・情報発信の充実、サイクリスト達が休憩したり、気軽に立ち寄れるような場所の提案、体験しながら移動しているときの手荷物配送の課題、サイクルラックなどの受入れ環境の整備などを行い、当ルートだけでなく、エリア全体を通じて周遊してもらえるような環境を整えていきたいと考えています。



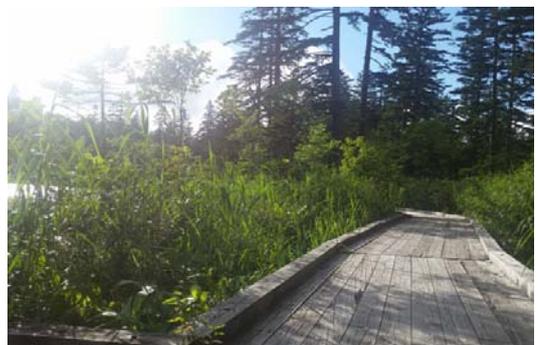
△天塩川とJRの間を走る快適な道。



△ガイドに案内してもらいながら、ゆっくりと景色を見ながらカヌーで進む。



△士別市の御当地メニュー・サフォーク定食。



△美深町の松山湿原の木道。車で行って、ぐるりと一周トレッキングするのも楽しい。

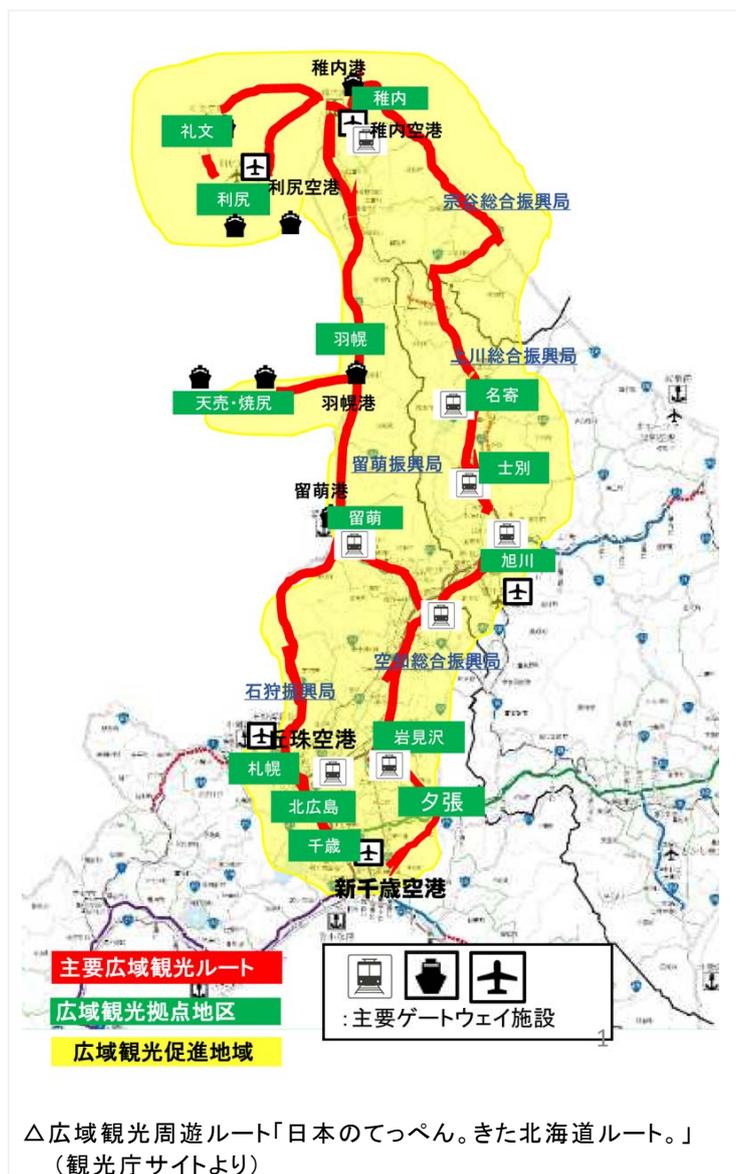
平成28年6月には、観光庁の広域観光周遊ルートにも認定(*)されたため、この動きとあわせてインバウンド観光も視野にいれ、この地域ならではの特性を活かしつつ、宗谷シーニックバイウェイと、より一層の連携強化を図るとともに、近隣の他シーニックバイウェイルートとの連携も図りながら、先進事例となるような観光周遊ルートの確立を目指します。

また、今後は、観光客が激減する冬期・端境期の観光のあり方について、厳しい冬(雪)と日本最北の地であることの特徴を活かした「冬のモビリティ」の検討や、近年多くなってきているレンタカーによる個人旅行者のドライブ観光も含めたモビリティの楽しみ方など、取り組みの幅も広げていきたいと考えます。

「日本のてっぺん。きた北海道ルート。」は、石狩振興局、空知総合振興局、留萌振興局、上川総合振興局、宗谷総合振興局のエリアとなっています。天塩川シーニックバイウェイにおいては、全地域(9市町村)が広域観光周遊ルートのエリアに入っており、北の玄関口「新千歳空港」・札幌・旭川から、稚内「宗谷岬」・利尻島までを繋ぐには必ず通過するため、非常に重要な役割があると考えます。

不便にも思えるような環境(二次交通の脆弱さ・電波不通エリア・コンビニ等の散居性など)に魅力を感じながら、自然にどっぷり浸かって、ゆっくりした時間の中で本物の遊びを体験できる“手軽な本格”を提供していきます。また訪れたい場所、誰かと共有したい場所を目指し、まずは、ルートメンバー間での意識醸成を図り、さらには広域なエリアで、宗谷シーニックバイウェイ等と連携を強めながら、人と自然の調和が織り成す「おもてなしの空間づくり」を形成していきたいと考えます。

*「広域観光周遊ルート」とは、テーマ性・ストーリー性を持った一連の魅力ある観光地を、交通アクセスも含めてネットワーク化して、外国人旅行者の滞在日数(平均6日~7日)に見合った、訪日を強く動機づける「広域観光周遊ルート」(骨太な「観光動線」)の形成を促進し、海外へ積極的に発信するもの。



広域的なエリアを巡るここでしかできないちょっと尖がった企画

< 3泊4日 >

例えばこんな方の場合
自分の愛車で
思いっきり走りたい！
達成感が欲しい！！

ストレスフリーで
約325km！
いざ・日本のてっぺんへ

北海道の真ん中（あたり）の旭川空港から日本のてっぺん「宗谷岬」まで自分の自転車で3日間走り続ける、ちょっと尖がったコース設定。北海道の魅力はなんといっても“道”。何キロも信号のない道が続いたり、どこが終わりかわからないほどの真っ直ぐに続く道。見える景色も、自然の香りも、進むたびに変化し、走る“道”の全てが美しく、自転車で走るには、たまらない爽快感があります。

～自転車のみで走りきる「ロングライド」の旅の例～

■エリア／天塩川流域ミュージアムパークウェイ

～宗谷シーニックバイウェイ

■コース／<自転車走行総距離：約325km

(一日平均約100km)>

1日目：旭川空港～(和寒町・剣淵町・士別市)～名寄市【泊】

2日目：名寄市～(美深町・音威子府村)～中川町【泊】

3日目：中川町～(幌延町・天塩町・豊富町)～稚内市「宗谷岬」



▲コース内にあるお勧めスポット／

塩狩峠（和寒）、絵本の館（剣淵）、天塩川の景観、豊富温泉（豊富）、抜海線（稚内）、宗谷丘陵（稚内）、宗谷岬からのサハリン（稚内）※他、スロウモビリティツアーと同じ。





3. ルートの資源と課題

(1) ルートの特性

上川北部9市町村で構成する当ルートは、地域の幹線である国道40号沿いと天塩川流域に7市町村が位置し、宗谷、オホーツク、日本海沿岸部へのルートが確立しています。また、内陸部のため、寒暖差は大きく、夏は暑く、冬は非常に寒い上に豪雪という北海道内でも特に四季にメリハリがある地域です。

当ルートが自慢するメイン資源とあわせて、地域の特性を紹介します。

◆天塩川【メインリバー】

当該エリア9市町村中、7市町村が流域として位置する天塩川は、延長約256km、北海道第2位の長大河川であり、北海道遺産に指定されるなど、人々の生活、及び、産業を支え、ふるさとの風景や思い出を育んできました。まさに流域住民の生活は天塩川と共にあったと言えます。現在でも日本有数のカヌー適地であり、多くの愛好家がカヌーツーリングを楽しむアクティビティや天塩川を舞台とした花火大会やイベントも各地で実施されるなど、時代は変わっても流域住民の生活に密着しています。



天塩川のカヌーイベント

◆歴史

北海道の名付け親として知られる松浦武四郎の著書「天塩日誌」や松浦武四郎が「北海道」と命名した地とされる音威子府村など北海道開拓の歴史と深く関わりのある地域です。

また、天塩川流域にはアイヌ集落(コタン)が点在し、「天塩川日誌」にも記載されている様に天塩川とアイヌの人々が共存し育んできた地域です。

平成30年には、北海道が命名されてから150周年となり、同年に松浦武四郎が生誕200年を迎えます。武四郎の歩いたとされる天塩川流域(屋外)には、武四郎の歩いた軌跡等について、看板で紹介されています。



北海道命名之地(音威子府村)

◆文化

中川町のジオロジー（地質）、音威子府村の木工、下川町の環境、和寒町の農業など同じような気候風土の中、独自性や特色の有る「まちづくり」が各地域で実践されており、よく言えば独立心と意欲が旺盛な地域です。また、厳寒に加え豪雪という厳しい自然環境ではありますが、寒さを逆手に取り冬期間を楽しく豊かに過ごす創意工夫が随所に見られます。

名寄市で開催される「なよろ国際雪像彫刻大会ジャパンカップ」は、毎年海外からアーティスト（チーム）が集い、美しい雪のアートを堪能できます。今はどこでも見かけるアイスキャンドルは、下川町が発祥地と言われ、「しもかわアイスキャンドルミュージアム」は、町民・観光客に人気の賑わいをみせるイベントとなっています。その他、士別市の「雪ハネ選手権」や中川町の「きこり祭り」など、地域特性を活かしながら、ひと味もふた味も工夫が凝らされたイベントが多く、訪れる人を楽しませています。雪質の良さを活かした人気のウィンタースポーツ（スキー・スノーボード、クロスカントリー、カーリング、スノーモービルなど）、雪国ならではの食（和寒町の越冬キャベツ）などがあります。



アイスキャンドルミュージアム（下川町）

◆自然

希少な原始河川の天塩川を始め、湿原、地層、化石、原生林など、野趣あふれる手付かずの自然資源が残されています。このような自然資源が残されていることにより、希少な動植物も各地域に点在します。更に、北海道百名山には、天塩岳（士別市）、三頭山（幌加内町）、函岳（美深町）

などの6つの山が選定されています。また、内陸性特有の気候から、非公式ながら日本の最低気温41.2℃を記録した幌加内町はじめ、特に冬期は厳しい寒さとなる影響により、サンピラー現象やダイヤモンドダストなど、非常に希少な自然現象を体験することが可能です。



函岳（美深町）



サンピラー現象
（名寄市ノピヤシリスキー場）

◆林業

中川町、音威子府村、下川町を中心に地域産業である「林業」を活かしたイベントなどがあります。森林資源を活かした多様な商品開発やツーリズム、森林教育などの多彩な分野で北海道内の先駆となっています。



きこり祭（中川町）

◆農業

日本一・全道一の作付面積・生産量を誇る和寒町のカボチャ、幌加内町のそば粉、名寄市のもち米やアスパラ、士別市のサフォークや甜菜、和寒町の雪中キャベツ、下川町のフルーツトマト、美深町のジャガイモ、くりかぼちゃなど、当該地域の気候風土を活かした多種多彩でポテンシャルが高い農畜産物が産出されています。特に昼夜の温度差が大きいという内陸性気候によって、他地域より糖度の高い農産物を生産することができ、アスパラ・かぼちゃ・イモ類などの品目で高付加価値化が実現できています。現在では農産品のスイーツやドリンク等へ二次加工や商品開発も進んでいます。



そば畑（幌加内町）

◆食

現在、すでに確立された食ブランドとしては、幌加内町・音威子府村の「そば」、士別市の「サフォーク羊肉」、名寄市の「もち」などがあります。また、和寒町のかぼちゃ加工品、下川町の手延麺、美深町的小麦(地粉)を使用したスイーツ、チョウザメ養殖、中川町の手スキャップサイダーなど、食のブランド化が進んでいる商品も多く存在します。単に農産物の生産だけではなく、加工・販売の取り組み、つまり「6次産業化」も順調に進んでおり、これらの地域産品を提供する店舗も地域の「道の駅」を中心に、各地でのイベント等にてお互いの商品を持ち寄って販売するなど広がりを見せています。



チョウザメ養殖（美深町）

松浦武四郎の紹介付
の御当地メニュー
「武四郎弁当」
*要予約（美深町）



◆観光

観光資源としては剣淵町のアルパカ、士別市・美深町の羊、幌加内町の朱鞠内湖、美深町の松山湿原、和寒町の桜、名寄市のひまわりと天文台、下川町の森林体験、中川町・音威子府村のエコミュージアム、天塩川流域で開催されているカヌーツーリング、四季折々に各地域で開催されるイベントなどがあり、当該地域の豊かな自然環境を基盤とする観光資源が豊富です。また、ハード面では、9市町村中6市町村に「道の駅」が整備され、小規模ではありつつも温泉宿泊施設が存在します。これら地域内コンテンツを広域的に組み合わせることにより、国内外に向けた魅力的な観光サービスを提供できる大きな可能性があると言えます。

【ルート内の観光資源】

		
<p>塩狩峠の桜（和寒町）</p>	<p>アルパカ（剣淵町）</p>	<p>岩尾内湖（士別市）</p>
		
<p>朱鞠内湖（幌加内町）</p>	<p>ひまわり畑（名寄市）</p>	<p>万里長城（下川町）</p>
		
<p>松山湿原（美深町）</p>	<p>エコミュージアム（音威子府村）</p>	<p>エコミュージアム（中川町）</p>

*その他の資源は、参考資料の資源マップを参照

(2) ルートの課題

◆人材確保と組織間の連携

9市町村が全て過疎地域であり、少子高齢化が進行している中、人口減少によるマンパワー不足が否めません。もともと観光地ではなかったため、市民レベルの意識共有とボランティア的な参加も脆弱です。

現在、自転車やカヌー、フットパスなどのアクティビティと地域資源を巡る旅のカタチ「エコ・モビリティ」を推進する当ルートにおいて、この地を訪れる観光客に対しては、地域住民による決め細やかなサービスや情報提供がより一層求められ、ルート全体の“地域力”を向上させる必要があると感じています。地域の魅力を自分の言葉で語れる地元ガイドの発掘と育成に向けた研修会の開催、地域イベントへのスタッフ参加など通じて様々な人とのコミュニケーションをとる機会を増やすなど、この地域の10年後をみすえて若い世代の人達をターゲットに、サービスやホスピタリティの向上を目指して取り組んでいく必要があると考えます。

これまで多かった取り組みなどを軸とした同業者や役所間の連携での縦割りの繋がり以上に、今後はシーニックバイウェイの取り組みを通して地域における「横」の連携を密にした形を作っていきたいと考えます。また、地域に点在する主要な観光施設・集客施設（道の駅や温泉施設、博物館や芸術文化施設など）との連携を強化することで、交流人口の拡大に繋がることと考えられます。

平成28年度には、広域観光周遊ルートに認定されたため、当ルート外との連携も図りながら、地域内での連携を少しずつでも深めていく必要があると考えています。

◆外国人観光客の受入体制強化

現在、当ルートでは、この地域の自然環境を活かし、ターゲットを絞ったツアーメニューの展開や観光プランを進めています。また、当ルートへの外国人観光客、特に個人客が増えつつあることから、今後は地域側での外国人観光客の受け入れ体制を整えることが重要と考えます。外国人観光客に対する各施設等での案内の充実、情報発信等が整備されていない現状があります。

言語対応では、どの地域においても、殆どの観光集客施設や宿泊施設で外国語を話せる担当者は少なく、言葉の壁により各地域の魅力を十分に伝えることができていない状況です。せっかく訪れてくれた観光客に対してのサービスの低下にも繋がること、また、リピーターとなってもらうためにも、早急に解決方法を検討する必要があると考えます。

一つには、事前の情報入手方法として、外国人に向けたポータルサイト（英語版）を作成することで、ルート全域で共通の案内（情報提供）ができるため効率的であると考えます。また、上で述べた地元ガイドを育成する研修会などの段階で、簡単な英語での対応の基礎を学ぶなど、外国人とのコミュニケーションを通じた会話の練習ができるような機会を増やしていくことも重要であると考えます。例えば、名寄市で毎年開かれる国際雪像彫刻大会には、海外からのアーティストチームの参加も多く、製作期間中には長期滞在となるため、そのような場を利用して外国人への対応に慣れていくことも必要です。外国人観光客に向けた対応については、今後の課題でもあり、広域的な対策の検討を進めていく必要があります。

◆情報の共有と発信

現在、当ルートでは共通したホームページやSNS（Facebook等）はなく、各地域の情報については、観光協会や商工会、役場、イベント等の実行委員会などで、個別に発信をしています。このため、各地の魅力的な景観やイベントについて、デザインを共通化したマップの作成・配布や、看板の設置など、訪問者はもとより地域住民も情報と意識を共有できる取り組みが必要と考えています。

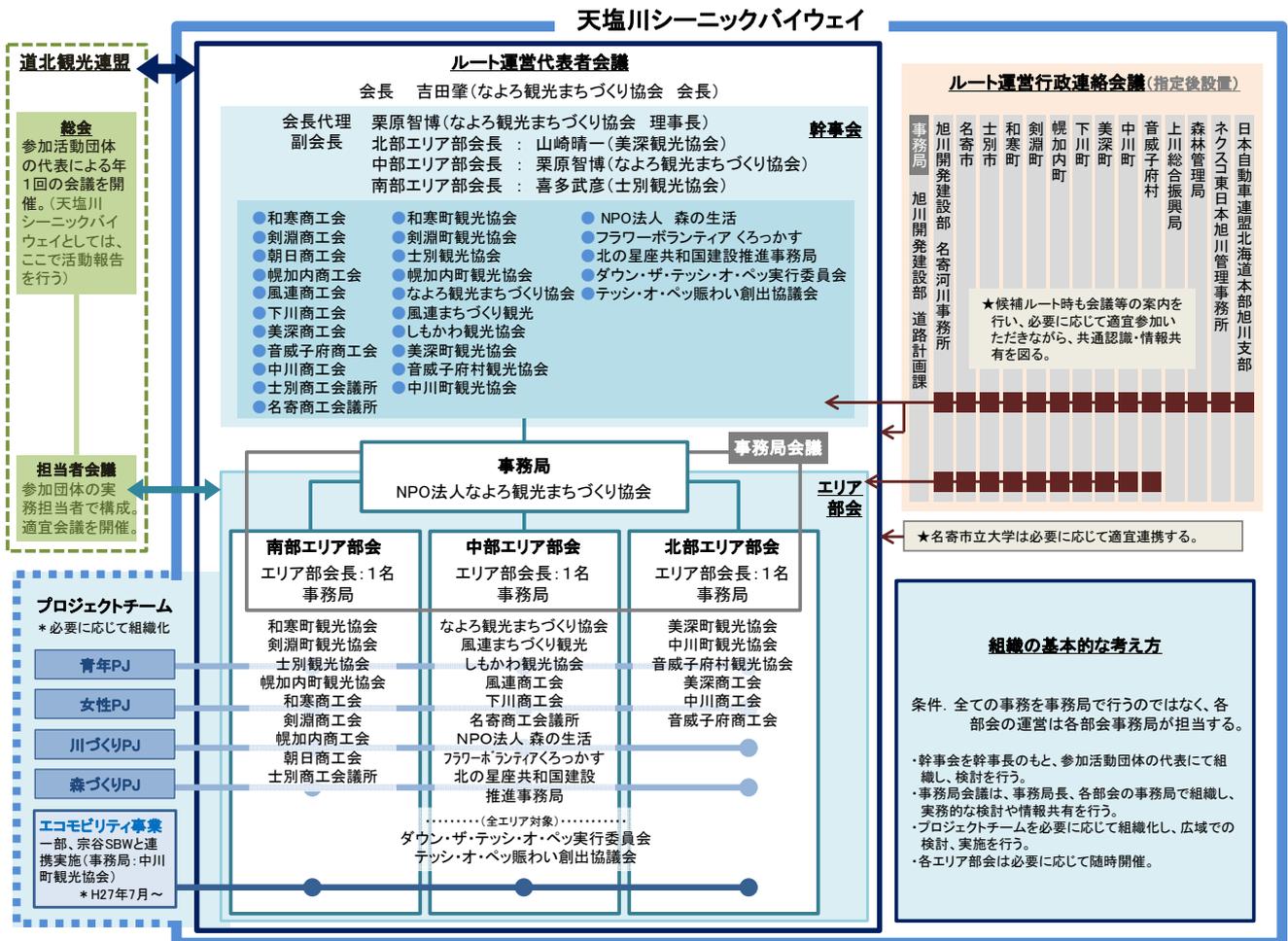
当ルートで今後強化していくべき点（今後の課題）

- 人材確保と育成
- ボランティアの拡大
- ホスピタリティの向上
- 組織間の連携強化
- インテリジェンスの整備
- 受け入れ体勢の整備
- インバウンド対策



4. ルートの活動体制及び方針・内容

(1) 活動体制



- ・ 具体的な活動内容に併せたプロジェクトチームを構成し、活動の充実を図る。
- ・ 各プロジェクトでの活動実施内容等については、ルート全体会議及び各エリア部会、担当者会議等へ、適宜報告する。
- ・ (補足) 「道北観光連盟」

昭和33年に道北地域の観光振興を広域で実施することを目的に設立された組織。連携地域は、和寒町、剣淵町、士別市、幌加内町、名寄市、下川町、美深町、音威子府村、中川町の2市6町1村。参加組織は、各自治体のほか、和寒町観光協会、剣淵町観光協会、士別観光協会、幌加内町観光協会、なよろ観光まちづくり協会(特)、風連まちづくり観光(特)、しもかわ観光協会(特)、美深町観光協会、音威子府村観光協会、中川町観光協会、和寒商工会、剣淵商工会、士別商工会議所、朝日商工会、幌加内町商工会、名寄商工会議所、風連商工会、下川町商工会、美深町商工会、音威子府村商工会、中川町商工会。

(2) 活動方針（目指す姿）と活動内容

シーニックバイウェイの柱である「景観」「地域」「観光空間」において、それぞれに方針（目指す姿）を掲げ、ルート内で連携した活動の充実を図ります。

「活動体制」にも記載したとおり、ルート内を3つのエリアに分け、各エリア部会で会議等を開催し、情報共有等の充実を図ります。

また、エリアに限らず、活動の内容にあわせて、ルート内外によるプロジェクトチームを構成し、幅広い活動となることを目指します。

<「課題」に対する活動方針（目指す姿）と活動内容（具体的な取組み）>

活動方針 (目指す姿) 課 題	【景観】 自然環境と地域特性を活かした 魅力ある景観づくり	【地域】 地域特性と歴史・文化を 活かした地域づくり	【観光空間】 地域産業と特性を活かした 広域的な観光空間づくり
	課題解決に向けた取組み (主な活動内容)	課題解決に向けた取組み (主な活動内容)	課題解決に向けた取組み (主な活動内容)
●人材確保と育成 ●ボランティアの拡大		○歴史・文化と森林文化 の活用 ▲地域ガイドの発掘・育成	○きた北海道エコ・モビリティ 事業の推進 ▲勉強会等の開催
●ホスピタリティの向上	○広域的で良好な周遊観光 ルートの形成 ▲花植え・除草活動、清掃活動 ▲メインコース周辺の景観整備		○きた北海道エコ・モビリティ 事業の推進 ▲勉強会等の開催
●組織間の連携強化			○ルート内連携による情報 発信 ▲ルートオリジナルロゴの作成 ▲連携ポスター ▲各地イベントでのルートPR ▲情報拠点の設置
●インテリジェンスの整備 (情報発信、 整理(一元化))		○歴史・文化と森林文化 の活用 ▲「森林」&「水」の教育 ▲「松浦武四郎」にまつわる地域 の文化伝承	○地域産業の活用 ▲御当地グルメの開発
●受け入れ体勢の整備 (案内の充実、 情報発信の強化、 集客施設等との連携)	○広域的で良好な周遊観光 ルートの形成 ▲ルートの景観診断	○歴史・文化と森林文化 の活用 ▲森林資源の活用	○広域的で良好な周遊観光 ルートの形成 ▲メインコースの設定 ▲ツアー等の実施 ○地域産業の活用 ▲道の駅との連携
●インパウンド対策 (案内の充実、 情報発信の強化、 多言語対応 等)			○きた北海道エコ・モビリティ 事業の推進 ▲ツアー等の実施 ▲情報発信の強化 ○地域産業の活用 ▲道の駅との連携

◆活動方針（目指す姿）

景 観

自然環境と地域特性を活かした魅力ある景観づくり

【主な活動内容】

○広域的で良好な周遊観光ルートの形成（主に、ルート内での取り組み）

▲メインコース周辺の景観整備

メインコースの設定にあわせて、気持ちよい良好な景観形成のため、コース沿道の清掃や除草などを行っていきます。

＜具体的な内容：H29年度～＞

- ・当ルートのコース周辺の景観整備（除草、清掃活動など）
- ・コース上の景観チェック（除草、清掃活動等の重点ポイント箇所の設定）

▲ルートの景観診断

地域資源の見直しやビューポイント箇所の確認・発掘などを目的に、ルート担当者等が参加する景観診断等を行い、各活動等に活かして行きます。

★これまでの取り組み★

平成28年度に、ルート担当者・アウトドア関係の旅行会社・旭川開発建設部等の計30名の参加によるルート内周遊観光ツアーを実施し、各市町村での主要な地域資源や観光施設等の確認を巡り、意見交換を行った。

＜具体的な内容：H29年度～＞

- ・ルート内の地域資源やビューポイントなどの確認（発掘）
- ・ビューポイント箇所の紹介・PR等の実施（情報発信、ビューポイントパーキングへの登録など）

▲花植え活動、除草、清掃活動

上記のコースの他、各地域で、どこを通っても、安心・安全・快適な「おもてなしの道づくり」を継続的に行っていきます。また、“美しい景観づくり”に寄与する「道」や「川」は、関わっている人のモチベーション向上にもつなげられるよう、活動状況などをリアルタイム（SNSなど）で情報発信していけるよう努めます。

＜具体的な内容：H29年度～ *平成28年度も同内容を実施＞

- ・除草：そばの花ビューポイント（幌加内町）
- ・花植：コスモスロード（士別市）
- ・花植：ひまわりロード（名寄市）
- ・清掃：天塩川クリーンアップ大作戦（天塩川・名寄川・剣淵川の周辺）
- ・灯り：雪燈籠（美深町） など

◆活動方針（目指す姿）

地 域

地域特性と歴史・文化を活かした地域づくり

【主な活動内容】

○歴史・文化と森林文化の活用

▲森林資源の活用

各地域において、「自然（森・水）」に触れて・学べる体験メニューの実施や、地元木材等を活用した商品等の開発などを行います。

★これまでの取り組み★

平成28年度にオリジナルサイクルラックを作成し、ツアー実施時のみ試行的に休憩箇所となる場所に設置した。今後は、夏期間を通じて常設できるよう集客観光施設等への協力体制を整え、ラックキッドとして商品化していきたい。

地域の木材を使用したククサ造り体験や、雪板を作って体験（滑る）などの取り組みを実施している。

<具体的な内容：H29年度～>

- ・地元木材を活用したクラフト体験（下川町、美深町、音威子府村）
- ・地元木材を活用したルートオリジナルサイクルラックの作成
- ・きこり体験（林業体験） など

▲地域ガイドの発掘・育成

地域への愛着・誇りの醸成へ繋がることを目的に、地域の魅力を伝える地元ガイドを発掘し、育成を目指します。勉強会へ参加したガイドが将来的には、地元のエコ・モビリティのイベントガイドとして参加（H29年実施次行から募集開始予定）し、そこからさらに、子ども達がガイドとなる学習やイベントなども検討します。

★これまでの取り組み★

地元のカヌーガイドとしては、美深町に2社あり、平成28年度のスロウツアーのカヌー体験時に協力いただいた。ただし、一度に体験する人数が増えると対応が難しくなるため、ガイドの育成または他のガイド等との連携を強める必要を感じている。

サイクルガイドについては、現在地域にはいないため、今後増えるであろうサイクルツアーなどを想定し、ガイドの育成が必要と感じている。

<具体的な内容：H29年度～>

- ・地元のサイクルガイド育成のための勉強会（講習会）等の実施
- ・地元のカヌーガイド等との連携強化（ツアー等での協力）
- ・小中学生を対象とした地域ガイドの検討 など

▲「森林」＆「水」の教育

豊かな森林資源を活かしながら、「林業・農業」など地域産業を次世代へ伝えるための子供向けのイベントの実施や、天塩川の他、名寄川、雨竜川などと言った「川」と、そこに住む生物や周辺の自然環境について学習する場を設け、自分達の住む地域への愛着の醸成を目指します。

★これまでの取り組み★

期間限定・人数限定で北海道大学が行っている森林文化・資源を学習する場を年2回設けている。大学でもつ森林資源のノウハウを活かし、活動の輪を広げるような取り組みを検討したい。

<具体的な内容：H29年度～>

- ・森の学校（中川町・北海道大学） ほか

▲「松浦武四郎」にまつわる地域の文化伝承

「北海道」と命名した松浦武四郎を軸に、平成30年には生誕200年と北海道命名150周年に向け、歴史文化の伝承に繋がる企画等を進めます。

★これまでの取り組み★

松浦武四郎を絡めた天塩川の歴史文化に触れる「天塩川フォーラム」を、開催地を変更し、様々な人に触れてもらえる工夫をしながら継続的に開催している。

（平成28年度実施で4回目の開催）

<具体的な内容：H29年度～>

- ・松浦武四郎を巡るツアー企画の検討（天塩川沿いの地域との連携：萌える天北オロロンルート等との連携も検討）

◆活動方針（目指す姿）

観 光

地域産業と特性を活かした広域的な観光空間づくり

【主な活動内容】

○広域的で良好な周遊観光ルートの形成（主に、ルート内での取り組み）

▲メインコースの設定

▲ツアーの実施

ルートがお勧めするエコ・モビリティ（自転車、カヌー、トレッキング等）、及び、自転車のみメインコースについて、心地よく・楽しく・魅力あるコース設定を行います。比較的時間をゆっくりとれる観光客（中高年）や親子参加など、ターゲットにあわせた周遊ツアーを行い、コース設定の見直し・検証等を行います。

★これまでの取り組み★

平成27年度に関係者によるコース設定のための試走、平成28年度に一般募集によるスロウモビリティのモニターツアーを実施した。今後は、アンケート調査結果を参考にし、コースの設定（確定）、情報発信の強化、受け入れ態勢の整備などを行う。

<具体的な内容：H29年度～>

- ・ルート内周遊の自転車コースの設定、及び、自転車とカヌー等を自由に組合せできるモビリティコースの設定（いずれも事前の試走含む）
- ・コース情報の整理（マップ等で整理）
- ・コースの情報発信手法の検討
- ・ツアー（または、イベント）の実施
- ・コース周辺の受け入れ体勢強化（サイクルラック、サイクルステーション等の設置検討）
- ・アンケート調査等の実施 ほか

○きた北海道エコ・モビリティ事業の推進（主に、ルート内外を視野に入れた取り組み）

▲ツアーの実施

道内外観光客及びインバウンド観光客も視野に入れ、他シーニックバイウエイルートとも連携した、自転車のみ、及び、様々なアクティビティを組み合わせた広域的なコースを設定、ツアーの実施等を行う。

★これまでの取り組み★

平成27年度に関係者によるコース設定のための試走、平成28年度に一般募集による旭川から稚内までのロングライドコースのモニターツアーを実施した。今後は、アンケート調査結果を参考にし、コースの設定（確定）、情報発信の強

化、ツアーをイベント化するなど、受け入れ態勢の整備などを行いながらさらなる発展を目指す。

<具体的な内容：H29年度～>

- ・ルート枠を超えた「ロングライドイベント」の実施
- ・ルート枠を超えた「スロウ・モビリティ」ツアーの実施
- ・アンケート調査等の実施 ほか

▲情報発信の強化（プロモーションビデオの作成、サイト・FBページ等の開設など）

広域的な連携した取り組み「きた北海道エコ・モビリティ」に関する内容を集約し、様々な情報を共有できるホームページやFacebookページを作成し、インバウンドも視野に入れたプロモーションを実施していきます。

★これまでの取り組み★

平成28年度に「きた北海道エコモビリティ」のFacebook頁及びサイトを作成し、公開した。

<具体的な内容：H29年度～>

- ・プロモーションビデオ等の有効的な発信手法の検討、活用
- ・「きた北海道エコ・モビリティ」のホームページの作成、更新
- ・「きた北海道エコ・モビリティ」の外国語版の作成 ほか

▲勉強会等の開催（専門家による講演、地域への取組み周知など）

自転車やカヌー、トレッキングなどのアクティビティと公共交通などを上手く利用して人力で進む「きた北海道エコ・モビリティ」事業において、ルート外の近隣市町村やシーニックルートと連携し、広域的な視点で様々な取り組みを行っていきます。

★これまでの取り組み★

平成27年度にアウトドアブランド、モンベル社佐藤氏をお招きして、アクティビティと観光について勉強会を実施した。平成28年度には、元八重洲出版編集長の宮内氏をお招きし、先進事例とともに自転車観光の現状について勉強会を実施した。＊いずれも宗谷シーニックバイウェイとの連携事業。

<具体的な内容：H29年度～>

- ・自転車専門家による地元ガイド育成に関する勉強会（講習会）の開催
- ・自転車ガイドとらのまきの作成 など

○ルート内連携による情報発信

▲ルートオリジナルロゴの作成

ルートPRと、新たな仲間の増強（活動への参画）、ルートに対する意識醸成に繋げることを目的に、ルートオリジナルロゴを作成し、ルート間で共有します。

<具体的な内容：H29年度～>

- ・ロゴの検討・作成
- ・ルートパンフレットやホームページ・Facebook、名刺等での活用

▲連携ポスター

各地域でのイベント情報や資源・観光情報などを集約し、ルート内で統一したパンフレットや、期間限定のイベントポスター（例：冬季イベントなど）などを作成し、広域的なよさを活かした情報発信の強化を図ります。

★これまでの取り組み★

平成24～26年度まで、冬期イベントの連携PRとして、ルート内のPRポスターを作成し、配布した。

<具体的な内容：H29年度～>

- ・ルートパンフレットの作成（日本語版、外国語版）
- ・冬の遊び（イベント）・体験メニュー等の連携ポスター作成

▲各地イベントでのルートPR

各地域での既存のイベント等において、シーニックPRブースを設け、「景観」「食と観光」などの情報とあわせて、当ルートの活動をPRします。

★これまでの取り組み★

札幌駅前通地下歩行空間、道庁赤レンガ、大通りBISSEなどの道央圏にてPRを行った。また、ルート内の各地域、新そば祭り（幌加内町）や秋味まつり（中川町）などでもPRを行った。

<具体的な内容：H29年度～>

- ・エリア外：道庁赤レンガ、エリア内：秋味まつり ほか

▲情報拠点の設置

ルート内の情報をお互いに周知し、観光客の周遊に促すことを目的に、情報拠点の増強を随時行っていきます。

★これまでの取り組み★

平成27年10月に、ルートで第一号の情報拠点を、NPO法人なよろ観光まちづくり協会・1階ロビーに設置した。

<具体的な内容：H29年度～>

- ・随時追加検討

○地域産業の活用

▲御当地グルメの開発

各地域の特徴あるメニューの情報発信や、日本一の生産量を誇る当エリアの特徴を広げるために、ルート内で食材を集めた御当地メニューの開発などを行っていきます。

<具体的な内容：H29年度～>

- ・ご当地弁当等の企画検討（日本一を集めたお弁当） など

▲道の駅との連携

観光客の立ち寄り拠点とも言える「道の駅」が、当ルートには6箇所あり、道の駅とルートで連携した情報発信等の充実を図ります。

<具体的な内容：H29年度～>

- ・当ルート情報の発信（インバウンド観光客への情報発信等）
- ・ルートのオリジナルサイクルラックの設置 など



5. ルートの活動団体

<活動団体の概要>

エリア	市町村	所 属	代表者名
南部エリア	和寒町	和寒町観光協会	渡邊 裕治
		和寒町商工会	浜田 義昭
	剣淵町	剣淵町観光協会	卯城 規伊
		剣淵町商工会	藤原 光男
	士別市	士別観光協会	喜多 武彦
		士別商工会議所	鈴木 勉
		朝日商工会	菅原 清一郎
	幌加内町	幌加内町観光協会	中南 裕行
		幌加内町商工会	小関 和明
	中部エリア	名寄市	NPO法人なよろ観光まちづくり協会
NPO法人風連まちづくり観光			多嶋 範宜
名寄商工会議所			藤田 健慈
風連商工会			堀江 英一
下川町		NPO法人しもかわ観光協会	石谷 英人
		下川町商工会	三津橋 英実
		北の星座共和国建設推進事務局	谷 博之
		NPO法人森の生活	麻生 翼
		フラワーボランティアくろっかす	近藤 正治
北部エリア	美深町	美深町観光協会	山崎 晴一
		美深町商工会	園部 一正
	音威子府村	音威子府村観光協会	阿部 洋
		音威子府村商工会	千見寺 恒昭
	中川町	中川町観光協会	吉田 寛
		中川町商工会	片山 峯輝
全域	-	テッシ・オ-ペツ賑わい創出協議会	加藤 剛士
		ダウン・ザ・テッシ・オ-ペツ実行委員会	吉川 一茶

■南部エリア



士別市観光協会

「しべつ雪まつり」「士別天塩川まつり」などの地域のイベントの企画・運営を行っています。また、市内および他地域と連携した観光振興・PRにも力を入れ、南部エリアで連携した「食と観光」をテーマにした着地型観光推進協議会での取り組みもしています。

士別商工会議所

地域イベントの企画や出店等の出展、特産品の開発・販売などを行い、道内に限らず、道外へも広くPR等を行っています。地域の方々と一緒に花植えや道路のゴミ拾いなどを行い、美しい道づくりを行っています。

朝日商工会

岩尾内湖や天塩岳を持つの特徴ある朝日町のイベントの企画・実施や、町内の花植え、清掃活動などを行っています。

幌加内町観光協会

そばの花の景観を観光資源とするため、地域住民と一緒に「景観プロジェクト」を立ち上げ、ビューポイントの設定や案内看板の設置、情報発信などを行っています。朱鞠内湖のガイドフィッシングの 프로모ーションにも力を入れています。

幌加内町商工会

作付け面積&生産量日本一！のそばをメインとした特産品の開発や販売、町内外でのイベントへ出展し、PR等を行っています。国道275号の沿道の花植えは、地域の人と一緒に実施しています。

和寒町観光協会

地域ならではの四季折々の特徴あるイベントの企画・運営を行っています。春の「桜まつり」や、冬の「極寒フェスティバル」では、町内外から多くの方に参加いただき、賑わいをみせています。

和寒町商工会

作付け面積&生産量日本一！の「かぼちゃを使った特産品の開発や販売に力を入れています。町内の沿道の花植えや清掃活動も行っています。

剣淵町観光協会

地域イベントの企画・実施、情報発信・PRを行っています。南部エリアでの広域での連携した観光振興と、「絵本」や「サイクリング」をテーマにしたインバウンドを対象とした観光企画等にも力を入れています。

剣淵町商工会

特産品の開発・販売などを行っています。町の中心部の花植えで、明るい町として皆様をお迎えしています。

■ 中部エリア



NPO 法人 しもかわ観光協会

地域イベント「森ジャム・EZOカップ」や「しもかわアイスクャンドルミュージアム」などを企画・実施しています。町内森林事業視察・研修の受入れや、観光案内や地域の情報発信を行っています。

下川町商工会

地域イベントの企画や出店等の出展、特産品の開発・販売などを行っています。地域の方々と一緒に花植えや道路のゴミ拾いなどを行い、美しい道づくりを行っています。

北の星座共和国建設推進事務局

道北地域全体を天体として各地域が「星」となって繋がった取り組みを行える組織として立ち上がりました。北海道の統計マップは、観光客にも大変好評で、現在は海外対応含めて8種類あります。

NPO法人森の生活

森に親しみ、触れ、感じてもらえる地元木材を活用した体験メニューの企画や、森林ツアーの実施、「森ジャム」等では、参加体験型のアウトドア体験などを企画しています。町内の森の管理も行っています。

NPO 法人 風連まちづくり観光

風連の観光施設を中心とした写真コンテストの実施や、商工会と連携しながら四季折々の趣向を凝らした様々なイベントを実施し、サイトでイベントの告知や情報発信を行っています。

NPO 法人なよろ観光 まちづくり協会

「観光」を視点とした道北エリア全体の広域的な連携を目指した取り組みを行っています。「ひまわり畑」の風景を観光資源に繋げる取り組みや、インバウンド観光、観光物産振興事業等にも力を入れています。

フラワーボランティアくろっかす

研修・ツアーや観光客を対象に、下川産の木材を活用した「箸づくり体験」の企画・実施を行い、森の大切さを伝えています。シーニックのツアーなどでも、参加者にあわせた木工制作体験などを企画して実施しています。

風連商工会

風連冬まつりや風舞あんどん祭りを実施しています。道の駅もち米の里☆なよろ周辺の国道40号沿いの花植え活動を、毎年町内の人や子ども達と一緒に、おもてなしの道づくりを行っています。

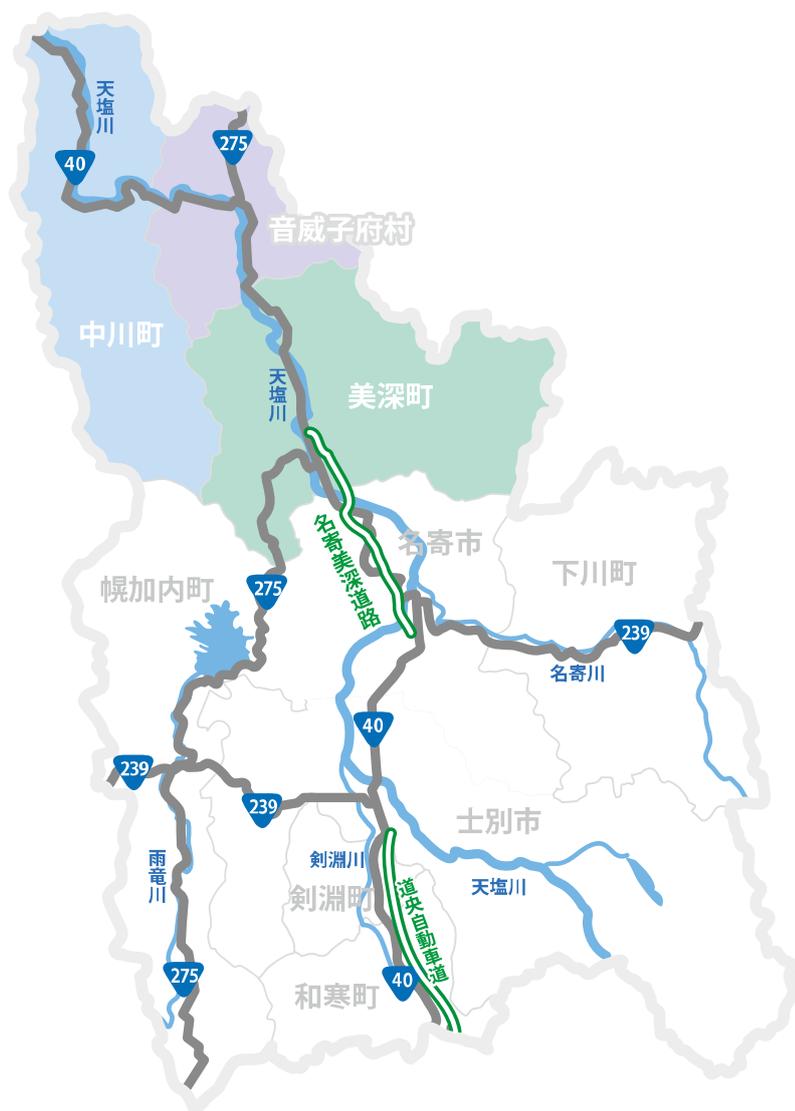
名寄商工会議所

商店街の活性化に向け、空き地・空き店舗の活用を検討するとともに、商店街のイベント事業や広報活動等、広く推進しています。

テッシ・オ・ペツ 賑わい創出協議会

「天塩川」をメインに、天塩川流域の市町村で連携した取り組みを継続的に行っています。毎年実施している「天塩川フォーラム」は、天塩川にまつわる講演とあわせて、地元の特産品ブースや体験コーナーを設け、多くの方に参加いただいています。

■北部エリア



中川町観光協会

天塩川の「水切り大会」、「丸太押し相撲」、「きこり祭」、「解氷クイズ」など、他ではなかなか見られない特徴あるイベントを企画・運営しています。「きた北海道エコ・モビリティ」を推進し、町内でのサイクルイベントやレンタサイクル事業のほか、広域で連携した取り組みにも力を入れています。

中川町商工会

都市と地方の交流拡大を目指した事業の推進や、特産品開発や地域商品券の販売などを行っています。東京都世田谷区に中川町のPRを行うためのアンテナショップ「ナカガワのナカガワ」を開設し、商品の販売やプロモーションなどを行い、中川町を含む北海道全体の魅力を発信しています。

美深町観光協会

季節の魅力を盛り込んだ年4回実施の「ふるさとまつり」などのイベントを企画・実施しています。北部エリア、道北エリアの広域的な情報発信・PR、アウトドア体験などの企画にも力を入れています。美深町交通ターミナル等の施設の管理も行っています。

美深町商工会

地域特産品の開発・販売などを行い、道内外へ広くPR等を行っています。国道40号を含む道道などの沿道の花植えや冬の灯りの道づくりなどは、商店街・地域住民の方々と一緒にしています。

ダウン・ザ・テッシ・オ・ペツ 実行委員会

士別市から天塩町まで流れる天塩川は、約156kmの間、堰堤などがなく続いています。この区間を毎年2泊3日の工程としてコースにした、カヌーイベントを行っています。道内外から多くの人々が参加し、毎年100名以上の参加をいただいている広域連携の一大イベントです。

音威子府村観光協会

地域のお祭り、おといねっつ高校との連携などによるイベントなどを企画・実施しています。

音威子府村商工会

「そば」をメインとした商品開発や販売促進事業等を行っています。天塩川周辺の清掃活動も地域の人達と一緒に毎年行っています。



6. ルートの活動実績と今後の計画案

(1) 活動の現状～これまでの活動概要～

平成26年度～平成28年度までのルートでの活動を紹介します。

no.	年度	活動名	分類					実施	
			景観	地域	観光	全体	広域連携	単年度	継続
1	H26	沿道の花植活動～国道239号「ひまわりロード」in名寄	●						● (～H26まで)
2	H26	川の清掃活動～天塩川流域（土別）	●				▲		●
3	H26	川の清掃活動～天塩川流域（美深）	●				▲		●
4	H26	ビューポイント箇所の整備～幌加内町のそば畑の景観向上	●						●
5	H26	シーニックバイウェイの取組みPR in幌加内新そば祭り		●	●				● (～H26まで)
6	H26	シーニックバイウェイの取組みPR in中川秋味まつり		●	●				● (H26～)
7	H26	シーニックバイウェイの取組みPR in札幌駅前通地下歩行空間		●	●				● (～H26まで)
8	H26	フォトコンテスト2014		●	●				● (～H26まで)
9	H26	冬の道北9市町村11イベントPR 連携ポスター		●	●				● (～H26まで)
10	H26	ルート運営に関する各種会議の開催				●			通年
11	H27	シーニックバイウェイの取組みPR in道庁赤レンガ		●	●				● (H27～)
12	H27	きた北海道エコ・モビリティ事業<継続実施：1年目>	●	●	●		● 宗谷SBW		● (H27～)
13	H27	ルートメンバーによるワークショップの開催				●		●	
14	H27	ルート運営に関する各種会議の開催				●			通年
15	H28	台湾サイクリスト招聘～ルート試走&意見交換		●	●			●	
16	H28	シーニックバイウェイの取組みPR in名寄（水防イベント）		●	●			●	
17	H28	石田東生先生とのシーニックに関する意見交換会				●		●	
18	H28	沿道の除草作業～国道275号「そばの花ビューポイント」in幌加内	●						● (H27～)
19	H28	ルートメンバーによるワークショップの開催				●		●	
20	H28	ルートメンバーによるルート内周遊観光ツアー		●	●			●	
21	H28	シーニックバイウェイの取組みPR in中川（秋味まつり）		●	●				●
22	H28	きた北海道エコ・モビリティ事業<継続実施：2年目>					● 宗谷SBW		●
23	H28	シーニック情報拠点～ルート第一号『よろーな』		●	●				● (H28～)
24	H28	シーニックバイウェイの取組みPR in道庁赤レンガ		●	●				
25	H28	和泉晶裕氏とのシーニックに関する意見交換会				●		●	
26	H28	広域連携による地域の取り組み報告会 in名寄				●	● 宗谷SBW	●	
27	H28	天塩川フォーラム in土別		●	●				●
28	H28	山田桂一郎氏によるルート視察				●		●	
29	H28	石井至氏によるルート視察				●		●	
30	H28	冬期イベントの実施				●		●	
31	H28	ルートパンフレットの作成				●		●	
32	H28	ルート運営に関する各種会議の開催				●			通年

景観

継続

No.1
H26

沿道の花植活動～国道239号「ひまわりロード」in名寄

実施内容

3年前から始まった沿道の花植え活動。「名寄のヒマワリでおもてなしの道」を目指し、国道239号沿道の植樹帯へ、JA道北青年部が育てた苗15,000株を市民等で植栽した。今後は除草・水やり等を随時実施する。

日時

平成26年6月28日(土) 9:00～11:30

区間(距離)

国道239号沿の約500m(国道239号と道道939号の交差点(市役所前)から国道40号までの区間の両サイド×柵2列=計2km程)

参加者数

約60名(ひまわりボランティア(市民団体)、観光協会、商工会、市役所、建設会社、地域住民 他)

実施主体

名寄市観光交流振興協議会



景観

継続

No.2
H26

川の清掃活動～天塩川流域(士別)

実施内容

北海道遺産にも登録されている日本最北の大河「天塩川」。この川に住む生き物、周辺の自然、静かで美しい川の流れを、次の世代へ引き継いでいくため、地域一体となって、川や周辺の清掃を一齐に行う「やさしさ」のイベントである。行政と連携し、天塩川流域の10市町村で実施され、本年度で13回目となる。各地域で実施日は異なるが、活動の周知や参加者増等を目指し、ポスターを統一するなど工夫している。

■士別市のクリーンアップの例

日時

平成26年7月6日(日) 9:00～11:00

区間

天塩川士別橋上流左岸付近

参加者数

約120名程度

実施主体

テッシ・オ・ベツ賑わい創出協議会、士別市

後援

旭川開発建設部、留萌開発建設部

協力

天塩川流域ミュージアムパークウェイ
(シーニックバイウェイ北海道 候補ルート)



統一ポスター

景観

継続

No.3

H26

川の清掃活動～天塩川流域(美深)

実施内容

国土交通省では、毎年7月を「河川愛護月間」とし、河川愛護意識の高揚を図るための運動を展開している。「天塩川クリーンアップ大作戦」は、地域と一緒に川や周辺の清掃活動を行う活動で、今年で13回目を迎える。美深町では、役場が主体となって実施し、地域住民へ町内の広報誌などで声かけを行い、地域を流れる天塩川の環境美化を目指し、活動を継続的に行っている。（※ポスターは統一のため、土別市の活動に掲載）

■美深町のクリーンアップの例

日 時 平成26年7月6日（日）
8:45準備（役場集合） 9:00～（1時間程度）

区 間 天塩川支流（役場周辺）

参加者数 約80名程度

実施主体 テッシ・オ・ペット賑わい創出協議会、美深町

後 援 旭川開発建設部、留萌開発建設部

協 力 天塩川流域ミュージアムパークウェイ
（シーニックバイウェイ北海道 候補ルート）



景観

継続

No.4

H26

ビューポイント箇所の整備～幌加内町のそば畑の景観向上

実施内容

幌加内町は「そば」の作付面積が日本一である。7月にはそばの花が町全体に広がり、その白い花は、まるで雪景色のように美しく、地域では地元農家・地域団体・企業・観光協会・自治体等が協力して「景観プロジェクト」を立ち上げ、町全体の景観向上に向けた取り組みを積極的に行っている。景観プロジェクトでは、美しい景観スポットを探し、ビューポイント箇所への案内板の簡易設置や、情報発信、沿道の除草活動などを行っている。ビューポイント箇所は年々増えてはいるものの、情報発信の充実・発展や、より効率的で効果的な沿道の除草作業（生育が早く、生命力が強いイタドリ）を行うことが今後の課題となっている。

時 期 平成26年7月（そばの花の景観の見ごろ）

箇 所 新生生ビューポイント「白銀の丘」、「純白の丘」
政和ビューポイント「そばの花展望台」
（国道239号沿道・周辺）

実施主体 幌加内景観プロジェクト



幌加内町で発行しているパンフレットの表紙とビューポイント紹介ページ



白銀の丘に設置した簡易看板(左)と、そば生産者が独自に実施している一般開放のビューポイントスポット「そばの花展望台」(右)